

～HIV 検査担当保健師さんへインタビュー～

平成 30 年 12 月 19 日、郡山市保健所地域保健課感染症係の鈴木玲子係長と、昨年のエイズ研修会でご講演いただいた保健師の佐藤隆行さんを訪問し、検査の実際や HIV 予防啓発活動の現状などについてお話をうかがってきました。

1. 検査の流れについて模擬体験をさせていただきました

申込者は保健所入口のソファにて待機しますが、匿名のため年齢と性別のみ確認されます。受検者同士が顔を合わせないよう予約時間を工夫されているとのこと。

順番が来たら個室に案内され「HIV・梅毒抗体検査申込書」、「カウンセリング記録票」に記入し、その他資料をもとに検査の流れの説明を受け、別室にて看護師に採血をしてもらいます。保健師もサポートとして同席します。

検査結果については、45 分後に再度来所するよう伝えられ、再来所時に口頭で説明されます。申込書に記載された受付番号と申込書本人控えで突合することで受検者の確認をします。結果を書面で求める場合は、検査申込書、結果通知書交付依頼書の署名を実名で記載することを条件に文書で受け取ることができるということです。

個室の空間での対応で、プライバシーに配慮されていました。パートナーと同行で来所される場合でも、基本的にカウンセリングなども受検者のみの面談に統一しているとのことでした。模擬体験であっても多少緊張しましたが、実際に緊張で体調を悪くする方もいらっしゃるとのこと、そのような場面にも配慮しながら、保健師の方がサポートされていたとのことでした。

2. 保健師の方へインタビュー

①今年度の 12 月時点での検査・相談件数、相談内容について教えてください。

保健所検査：192 名、駅前検査 152 名の計 344 名。梅毒検査数も増加しており、最近では QUEEN の映画「ボヘミアンラプソディー」公開以降、検査数が増えた印象です。メディアの影響は大きいと感じます。

駅前検査では土曜日に行くため市外から来る受検者も多いです。土曜日に実施

しているのは県内では郡山市だけです。中には奈良県の「郡山」という地名と間違えて来る県外の方もいらっしゃいます。

相談件数としては電話相談が、性別は男性からの問い合わせが多く、抗体検査をどこで行っているのか、いつ行うのか、風邪症状、発熱、発疹など、いわゆる HIV 感染の初期症状に対する不安、またはリスク行動に関連付けた話題が多いです。

②受検者の年齢、世代について教えてください。

20～30 歳代が多いです。未成年者が受験することもあります。中・高校生に対するの教育を行っているため若年層の受検件数も少し増えています。50 歳代の方もいますが、年齢層に合わせた普及・啓発活動というよりは、どちらかといえれば、若年層向けに取り組んでいることが多いです。

③告知はどのようにされていますか？

平成 29 年度には陽性者はいませんでした。平成 30 年 4 月に 1 名陽性者がいましたが、来所せず、伝えられていない状況です。平成 28 年度には 4 件陽性がありました。判定保留（要確認検査）の結果が出たことを電話連絡にて行い、なるべく早めに来るよう伝えていきます。

定期検査日には窓口が夜間 19 時まで開いているため夜間対応の方もいます。

陽性告知は保健所長が行っています。陽性告知の際には保健師も同席せず保健所長のみで対応しています。10 分程度で説明し、その後のフォローは保健師 2 名体制で行います。その中で、本人の不安軽減を図りながら気持ちの整理をし、有効な治療法もあることや社会資源などについて説明しています。パートナーへの伝え方や職場に伝える必要があるのかという話題も出てきます。いつでも保健所に相談して良いことなどを伝えながら次回の面接をするかどうかも含め、ケースバイケースで相談に応じています。

④陽性だった方の受診先の選定やつなぎ方はどのようにしていますか？

福島県内の拠点病院のリストを提示しながら、本人が決めます。近いからという理由や、知られたくないとの思いから地元以外の病院を希望する人も多いです。保健所から紹介状を作成してお持ちいただくようにしており、告知を受けた陽性者のほとんどは受診につながります。病院にはソーシャルワーカーがいて相談できるということもインフォメーションしています。受診後、保健所に連絡を頂くか本人から教えてもらった連絡先に 1 週間後に保健所から連絡し、受診状況を確

